

「何でこんなにも成績が上がらないのだろう」

私が学習塾を始めた頃の正直な気持ちです。

実は開校当初の2年間ACTでは今のスタイルではなく一般的な個別指導塾として指導していました。

個別指導を選んだ理由は、『一番成績を伸ばせる』と考えたからです。学習塾を始める前、私はメーカーに勤務していて学習塾は子供のころを含めて一度も通ったことはなかったのですが、当時の私は『教えてあげれば成績が伸びる』と信じていたのです。

その結果は散々たるもので、当時のACTは偏差値50以下の生徒が8割を占めていて、少しでも成績を上げたくて無料の補講やマンツーマンでの特訓など色々実施したのですがこの状況が変わることはありませんでした。

そしてある日『私たちが一生懸命教えたところで生徒たちがやらない限り、成績は上がらないのではないか』と感じ個別指導をやめ指導方針を思いつきり変更しました。

すると生徒たちの成績がみるみる伸び始めたのです。

この冊子を御覧の皆様にも私と同じ

「**何で塾に行っているのに成績が上がらないの**」

「**勉強を教えてもらえれば成績は上がるだろう**」とお考えの方は多数いらつしやると思いますが、学習塾に入っても成績が上がらない子供はたくさんいるのです。

もしかして、今この冊子を手を取っている方の中に「成績が上がらないから塾を変えようかしら」と思いながら読んでいる方もいらつしやるのかもしれないませんが、現在塾に通っていて成績が上がらないのであれば、転塾しても同じ結果

になるかもしれませんが。成績が上がらないのは、明確な理由があるのです。

「正しい知識を持って学習塾に入ってほしい」、この冊子を最後までお読みになれば

- ・ 子供の成績が伸び悩む理由がわかります。
- ・ 誰でもできる成績を上げる勉強方法がわかります。
- ・ 学習塾の正しい選び方がわかります

そして何よりも

きちんとした知識を得ることにより、心に余裕を持って子供に接することができる、正しい方向へ導くことができます。

「その為の手助けをしたい」との思いからこの冊子を作成しました。
最後まで是非お読み下さい。

第1章 塾業界の問題点

今では大抵の子供たちが入っている学習塾。この学習塾とはどのような存在なのかをキチンと理解しなければいけません。まずは現在の学習塾の状況を説明します。

第1部 学習塾は企業である

まず始めに考えていただきたいことは学習塾とは、公立学校やボランティアとは違い企業であり利益をあげなければいけないということです。

私は学習塾に通った経験がなく、メーカーに勤めていたので学習塾とはどんなものか分からなかったため、フランチャイズに加入してスタートしました。

そのフランチャイズでは毎年1回優良塾の表彰があり、その時の表彰基準は何だったと思いますか、

「学習塾だから成績向上率かな」と思われるかもしれませんが、

実は年間売り上げです。

私は今まで色々な講習会に出席して、少しでも良い塾にするにはどうしたらいいかを勉強してきましたが、その講習会で

夏期講習時、利益を確保するために

生徒に1講座でも多く受講してもらおう方法の講座はあっても

生徒から10万円いただく価値ある授業方法の講座はありません。

退塾防止の為の講習では何を指導されると思いますか？

生徒や保護者の誕生日に贈り物をするという事でした。

理由は、塾によい感情を持ってもらう為です。

これを聞いてあなたはどうか感じますか。

学習塾に通う目的は、**成績向上**のはずです。

成績を上げるために入塾したのに、大切な授業料の見返りが成績ではなく贈り物で返ってくるのは不思議な話です。

あなたも、「**夏期講習会に参加された方には抽選で何名さまに豪華商品プレゼント**」というチラシをご覧になったことがあるでしょう。

「**なにか違う**」と思いませんか。

第2部 学習塾の指導

当校に転塾してきた生徒にこのようなことを聞きました。

以前に通っていた塾では、

「先生は周りが寝ていても注意もしないよ」

「授業中にみんな携帯をいじっているよ」

「授業中に学校の宿題をやっているよ」

保護者が聞いたらびっくりにしてしまう内容ですが、学習塾の中で起こっていることは事実のようです。

しかしながら講師は注意をしません。

なぜ注意しないかという点、**やめられたら困るから**です。

先ほど話したとおり、**学習塾の第一目標は売上をあげること**だから、注意して生徒に辞められれば売上が下がります。その講師の査定が下がるからです。アル

バイト講師が指導しているのであれば、そもそも注意すること自体が出来ないでしょう。

注意してやめられるよりも、他人に迷惑が掛かっているのだから、注意するのをやめよう。

社員の立場になればこう考えても不思議ではありません。

第3部 成績が上がらなくても

生徒が辞めない事を知っている

あなたのお子様「成績が上がらないから学習塾を辞めなさい」というと子供達はどんな反応をすると思いますか。

「えー 辞めたくないよ」という生徒はいても、

「本当 嬉しい」という子供は少数派でしょう。

子供達が辞めたくない理由は何かわかりますか、

勉強が遅れると言う理由も、もちろんありますが、**友達と離れたくない**という理由が多いのです。

勉強するためではなく友達と遊ぶために通っている生徒も多いのです。

今の塾は大変居心地がよく

生徒はお客様なので不快にならないような対応をする。

けして怒らない。

分からない問題はすぐ教えてくれる。

講師は若く友達感覚で接してくれる。

友達とたくさんいられるし、塾自体とても居心地が良いし、勉強をした気分になるから塾を辞めたくはないのです。

それをわかっているから、学習塾では成績を上げる事よりもどんどん生徒に甘い居心地の良い塾づくりをしていきます。

第4部 学習塾で成績は上がらない

先ほどの話で贈り物をする話をしましたが、そもそもなぜ贈り物をしなければいけないのでしょうか、

贈り物なんてしないで堂々と成績向上を前面に押し出せばいいのです。なぜそれが出来ないのでしょうか、

それは、**学習塾に通っただけでは成績は上がらない**からです。

成績をあげる為の指導が出来ないという表現が正しいかもしれません。

「合格実績が書いてある塾もあるじゃないか」と反論が来そうですが、私が言っているのは、**塾の力によって成績を上げられる塾は少ない**ということですよ。

塾に入り成績が簡単に上がる生徒もいれば、簡単に上がらない生徒もいます。実は簡単に成績が上がる生徒はどこの塾に行っても、いや塾に行かなくてもきちんと勉強すれば成績があがる場合が多いのです。

簡単に成績が上がった生徒だって、もしかして塾によってはもっと成績が上がる可能性があるのです。

あなたのお子様が進んでいる（通わせたいと思っている）学習塾は、どうして成績が上がるのか、考えてみてください。

- ・ 集団授業で切磋琢磨出来る。
- ・ 生徒独自のカリキュラムを組んでくれる。
- ・ 指導が丁寧だ。

・問題集がよく出来ている。

と言ったところでしようか。

しかしこの中には大切なことが抜け落ちていきます、それはやるのは生徒自身であるということなのです。

集団授業で切磋琢磨できるのであれば学校だって出来るはずだし、いくら指導が丁寧で問題集が良くても生徒が自分からやらなければ絵に描いたもちとなり意味がないのです。

最高の問題集があつたとしても、塾に行つて居眠りしている生徒の成績が上がるわけありません。

私たち大人は、目先で物事を考えてしまいますがやるのは生徒だという点を考え、何が必要なのかを考えるべきなのです。

第5部 依存学習を推進している

勉強は人から教えてもらうのと、自分で解説を読んで理解するのではどちらがより記憶に残りますか、もちろん**自分で解説を読むほうが記憶に残るはず**です。

解説を読むという事は、『自分自身で何故そうなるのか考えた』から記憶に残るのです。

例えばあなたの記憶に残っている勉強はなんですか、

私は社会が苦手ですが、歴史の600年代のことは今だ良く覚えていきます。

何故かと言うと『小学校6年生の頃に自主発表会で自分でまとめたから』です。

『人は自分で学んだことは忘れにくい』のです。

しかし残念なことに学力低下が叫ばれる中、子供たちは自分で考えることが出

来なくなっています。

それは私たち大人にも責任があるのかもしれない。

今の子供たちは、何でも与えられて自分ですらなくても大人が何とかしてくれます。

今の学習塾は、自分が考えなくても講師が全て段取りしてくれるため、塾に依存する生徒が増えているのです。

だから子供は、

- ・ 勉強は学ぶものではなく、教わるものだ勘違いしてしまう。
- ・ わからないことは自分で考えようとしめない。

結果として先生がいないと何も出来なくなり

- ・ 良くわからないから丸暗記をする。
- ・ 丸暗記だから「直ぐに忘れる」を繰り返すため思考力・理解力・応用力が育

たない。

・面白くないから勉強に身が入らない。

今は家で勉強できない子供が大半です。それは自分では勉強できない子供が増えているからです。家で勉強できない子供は、勉強が苦手な子供だけではなく成績上位の子供にも確実に増えているのです。

依存教育を推進する塾、実はここが一番問題かもしれません。

塾側に立つと、依存教育を推進したほうが得なのです。理由は、依存教育を実施することにより子供達はますます塾に依存し通塾してくるからです。

しかし

本当にそれでいいのでしょうか。

第6部 入塾金の不思議

「入塾金が1万円になります」

入塾するときに徴収される入塾金。

当たり前前と違って払っているのかもしれないませんが、どうしても入塾金を取られるのか不思議に思いませんか。

どうしても1万円なのか

どうしても払わなければいけないのか私自身もわかりません。

私達の普通の感覚では

お金を払う Ⅱ 何かサービスを受ける となるはずなのです。

では入塾金でどんなサービスを受けているのでしょうか

よく考えると頂く理由がないのです。あえて言うなら広告代の回収くらいになるのでしょうか。多分どこでも貰っているし、少しでも儲けたいから徴収しているのでしょうか。

一度聞いて見てください

「入塾金を支払いする理由を教えてください」

何もいえないと思います。入塾金とはそれほどいい加減なのです。

同様に、広告の月授業料が安くても契約時に設備費を別途徴収される。

はじめは週1回だったのに、しばらくすると週3回でなければ教えられないといわれる等、入塾当初に考えていた以上にお金がかかるという事があります。

「聞いていないよ」となる前に、保護者の方がきちんと勉強することが大切です。

第2章 成績を上げるには

第1部 学力の差は反復力の差です。

毎日通学している学校で、子供たちは一生懸命勉強しているのですが、同じ授業を受けても学力に差が出てしまいます。

学校の授業がいい加減なのでしようか、そんなことはありません。学校の先生は毎日すばらしい授業を実施しています。

全員が同じ教科書で同じ授業を受けても成績に差が出てしまう。

それは**授業を受けるだけでは成績が上がらない事**を意味しています。では、どうして違いが出てくるのでしょうか。

学力を上げるには『わかる』を『出来る』に変換する必要があります。
成績が良い生徒は『出来る』への変換を上手に実施しているのです。

例えば、あなたはテニスのサーブの打ち方を、参考書を見て覚えたとして実際に打てるようになりますか、なるわけないですよ、**『実際に自分で打つてみない限り打てるようにならない』**のです。

勉強も同じで大抵の生徒は授業中に『わかった』ので、もう解けるようになったと思いますが、まだ『出来る』まで変換されていないので解くことが出来ないのです。

では『出来る』に変換するためにはどうすればいいのでしょうか、もう1回テニスの例をあげて考えてみましょう。

あなたはテニス部です、どちらを選択すればうまくなると思いますか。

- ① 毎週月曜日だけ700回素振りする . . . 毎日100回素振りする
- ② 言われたことをただ実行する . . . 自分で練習を工夫する
- ③ 人と同じメニューを実施する . . . 人より練習する
- ④ あなたは1年間練習し非常に上達しましたが
それでも素振りを練習する . . . もう素振りはする必要がない
さてあなたの答えはどうでしたか。

実はACTの生徒にも同じ問題を質問したときがあります。

その結果多数を占めたのは

- ① 毎日100回素振りする . . . すなわち毎日の継続が大切だ
 - ② 自分で練習を工夫する . . . すなわち人に言われたのでは上達しない
 - ③ 人より練習する . . . すなわち人より努力をする
 - ④ それでも素振りを練習する . . . すなわち基礎が大切である
- 勉強も同じで**毎日、自分自身で考え実施すること**が大切なのです。
あなたの勉強はどうですか。

- ・テスト前にまとめて勉強してませんか。
- ・宿題は前日いい加減にやっていますか。
- ・わからない問題は答えを丸写ししていませんか。
- ・日々予習復習をしていますか。
- ・基礎を軽視していませんか。

成績は世界一すばらしい授業を受けても上がりません。

『毎日自分で考えて、反復すること』

当たり前ですが、これが成績を向上させる秘訣なのです。

世間には色々な勉強に関する本や情報があり、『らくらく暗記術』や『たった20時間の講習で偏差値10点アップ』など興味をそそる内容がたくさんあります。

では本当に20時間の講習で偏差値を10点アップできるのでしょうか。

もちろんアップする人もいるかもしれませんが、大抵の生徒はそこまで上がりません。なぜならば勉強は『本人のやる気が重要だから』です。

そう考えると勉強はダイエットにも似ているかもしれません。ダイエットも同様に本を見るだけで痩せる事はないし、意外と当たり前の事を書いています。

『継続して実践すること』これが一番大切に難しいことなのです。

野球のイチローは人と同じ練習をしていたのでしうか、また人より効率の良い練習をしていたのでしうか、違いますよね。人が1時間の所を2時間練習していたはずです。人が100回素振りをしてるところを200回素振りしていたはずです。

勉強にも王道はありません、耳障りの良い言葉に流されず自分で正しい判断する事を忘れないでください。

第2部 反復（繰り返し）の必要性

では何故人は反復をしなければいけないのでしょうか。

エビングハウスの忘却曲線というものがあり、それによれば

人は20分後には、42%を忘れる。

1時間後には、56%を忘れる。

1日後には、74%を忘れる。

1週間後には、77%を忘れる。

1ヶ月後には、79%を忘れる。

人はたった1時間後には56%も忘れてしまうのです。

結論を言うと、**塾で週2回90分程度勉強しても成績は簡単に上がりません。**

今日、単語を覚えても、次の日には74%の単語を忘れていきます。

学校で週4時間も実施している英語は、塾では時間が足りないので完璧に復習はできません。

成績を上げるには**反復が重要**なので、やはり日々の勉強をキチンとしているかどうかが大切になってきます。

同じ7時間でも

『1日3・5時間を2日学習する』のと

『1日1時間を7日間勉強する』

のでは同じ時間でも**後者の方が反復**できる為、頭への定着が図れるのです。

この話を聞くと「**塾に行く必要ないじゃない**」と思いませんか？
これからその答えを説明していきます。

第3部 自分で考えるとは

成績が上がる生徒と伸び悩む生徒では同じ時間勉強しても、中身が違うので

例えば『半径3センチメートルの円の面積の求め方を解説を理解して説明して』とお願いすると、考えるのが苦手な生徒は、

3×3×3=9と記入してきて『3掛ける3掛ける3だから9』と説明します。

この説明では何がいけないのでしょうか。

理由は『**3×3×3**』が**成り立つ理由を理解して**いないからです。

生徒に『なぜ答えが3掛ける3掛ける3になるの』と聞くと理由を説明できません。

この生徒は、**答えを覚える事が勉強**だと思っていて、書いてある事をそのまま覚えようとするのです。

正しい説明は

円の面積の公式は

半径 \times 半径 \times π なので

3 \times 3 \times π \parallel 9 π となる。

こんなの当たり前ですよ、しかし大人にとっては当たり前でも子供たちにとっては **丸暗記** \parallel **勉強**と勘違いしていて説明できない生徒は案外多いのです。

まとめ 1

考えるとはどう書くかではなく何故そうなるかを理解すること

次の生徒も考えることが苦手な生徒です

3 X + 3 || 6 という問題があつたとします。

生徒 この問題わからない

先生 直ぐ聞かないでよく考えろ

生徒 (何もしないでただ見ている)

先生 どうだわかったか

生徒 考えたけどわからなかった

生徒は考えたと言いますが、この生徒は**何も考えていない**のです。

あなたは『解の公式を説明せよ』と言われたらどうしますか、

頭を使って考えますか、そんなことはしないですよ、だってわからない問題は1週間考えたからってわからないのだから。直ぐに**辞書や参考書で調べ**

るはずです。

人は頭に入っていないことは答えられないのです。

まとめ2

考えるとはわからない問題を自分で調べること

次の生徒はどうでしょうか、

生徒 この問題わからない

先生 解説読んで考えろよ

生徒 (説明を聞き、答えを書き写して)

先生 どうだわかったか

生徒 大丈夫もうわかった

↳ 次の問題に取り掛かり

生徒 先生この問題わからない

先生 さっきの類題じゃないか、解説読んで理解して

↳この繰り返し↳

類題が出来なかったこの生徒は何が悪かったのでしょうか。

次のページに良いまとめ方の例と良くないまとめ方の例を紹介します。

類題を解けない生徒は、『各段落が何故この様な式になるのか』『自分は何をわかっていなかったのか』を判断するべきなのですが、この生徒は、**ただ答えを写しただけでわかった気になっていたから類題を解くことが出来なかった**のです。

成績が良い生徒は、授業でも自宅学習でも自然に解答を分解しているので覚えることが出来るのです。

まとめ3

考えるとは解答を分解して分かりやすくすること

最初の2年間、A C Tの生徒の成績が上がらなかつたのは、**考える意味を**自身が理解していなかつたからです。

『わかる』から『出来る』に変換するには、自分で理解して反復する必要があります。

個別指導などはアルバイト講師が実質教えています。また講師をバイトに選ぶ位なので『教えることが大好き』であり、そして答えを教えることが講師のやる事と考えているため、以前の私と同じでわからなければ直ぐに教えてしまいます。

直ぐに答えを教えるということは、

- ・ 生徒は、答えがわかったので満足感がある。
- ・ 講師は、問題が解けたことに対する満足感がある。
- ・ 保護者は、子供がわかりやすいと言うので満足感がある。

しかし、その結果は成績が上がらず、

- ・ 生徒はやる気を無くす。
- ・ 講師はあれだけ教えたのにとむなしくなる。
- ・ 保護者はあきらめてしまう。

それは 答えを教わる⇨勉強すること と勘違いしているからです。

以上のことより学習塾のすべき事は、

勉強の仕方を教えること

勉強のしやすい環境を作る

そして 生徒を信じて見守ること なのです。

ここまで読んでいただいた方は、もう理解していただけたと思いますが、
答えを教える ⇨ 解けるようになるではないのです。

ここまで話した内容はどう感じましたか、よく考えてみると殆どの人は、**そう**
かもしれないと理解できると思います。

ではなぜ気づかないのか、しようがないのです、塾に入る期待感でいっぱい
だからです。

「次のテストはどのくらい点数があがるのかな」

「担任の先生はどういう人だろう」

「これからどんな授業をするのだろう」

「一生懸命勉強するぞ」

「これであの子が勉強をしてくれる」

塾に通うことで、新しい世界が開ける感じがするからです。

しかし、しばらく通った結果

「結局勉強するだけなのか」

「夜になっても勉強で疲れちゃうよ」

「なに言っているかわからない」

「宿題が多くてやってられない」

「ぜんぜん成績が伸びないじゃないか」

結局「塾に通ってもだめだったか・・・、僕（私）はこんなにも勉強が出来な

いのか」とあきらめてしまう、

塾に入っても成績が伸びない、こんな想いの子供達がどれだけいることか。それでも期待して他塾に転塾してまた同じ結果・・・これでは嫌になってしましますよね。

私はこの環境を変えなければいけないと思っています。

第3章 ACTの実践する学習

第1部…成績を上げる事は自分を知る事

成績を上げるのはとても簡単で、自分の悪さを意識して改善する事です。

悪さには2種類あって

- ・ 間違えた問題に対する対応
- ・ 勉強する心構え

これらを意識した勉強で、まだまだ成績を上げることが出来ます。

第2部…間違えには3種類ある

では間違えた問題に対する対応についてお話します。

間違えには3種類あって

- ① 全く分からなかった
- ② 見たことあるけど解けなかった
- ③ 解けたと思ったけど間違えた

この3種類で勉強方法が変わってきます。

あなただったらどれを重視して勉強すべきだと思いますか？

もしかして②③は解答を見ればわかるから、“①全く分からなかった”を重視すべきと考えましたか？

私だったら“③解けたと思っただけ間違えた”を重視し、“①全く分かんかった”は後回しにします。

理由は“全く分からない”のは理解できるかどうか分からないし、“解けたと思っただけ間違えた”のはきちんとやり直しをしたら、“必ず解く事が出来るはず”だからです。

しかし大抵の生徒は答えを見たら「ああそういう事か！」と納得して終わらせて、自分の悪さを確認しようとしません。

解けないのには理由があります。例えば“符号を間違えた”のであれば、符号を間違えた理由があり、英語の語順を間違えたのであれば間違えた理由があるのです。

間違えた理由を自己分析し改善すると、ケアレスミは少なくなってきました。

成績上位の生徒は、圧倒的に“解けたと持ったけど間違えた”が点数を落と
しているはずでず。

成績中下位の生徒は、できない問題に無駄に時間をかけて、解けるはずの問
題を落としているはずでず。

問題の種類を選別して、効率の良い勉強をすべきでず。

第3部…徹底した繰り返し

間違えた理由が分かればその後は、徹底した繰り返しをして正しいやり方を
体に覚えさせる作業でず。

しかし生徒たちは、自宅ではきちんとした復習を実施できません。

A C Tでは塾でたくさん勉強できるので徹底して反復練習ができます。

第4部…意識改革の重要性

やり方が分かった！ では実践したら直ぐに成績が上がると言えばそう簡単なことではありません。

まず前提として理解しなければいけないのは、

子供たちは「自分からは勉強をしない」という事です。

でも子供たちは、成績を上げたい、勉強はしなければいけないと思っています。

この矛盾は何処から来るのでしょうか？

子供たちは

顕在意識（考える意識）では「成績を上げたい」と考えていますが

潜在意識（無意識）では「勉強しなくても何とかなる」と考えています。

だから潜在意識を変える必要があります。

潜在意識を変えるのは、成功体験と動機付けです。

成功体験は、成績を上げる事。

動機付けは「自分で考える」事が大切です。

「なんで勉強するの」

「なんで成績を上げなければならないの」

「成績が上がったら何が起きるんだろう」

「あなたは将来どうなりたいの」

(もし成績が上がったとしたら)

「周りの人(家族)は、あなたのことをどう思う」

「自分はどう変わることが出来る」「周りの人はどう変わる」

常に問いかける事です。

第5部…意識を変えるためのツール

A C Tでは主に3つの帳票で意識改革を実施していきます。

- ① テスト分析表
- ② 日々日報（栄光への軌跡）
- ③ テスト目標シートと計画表

この3種類の帳票を定期的に使用し意識改革を行います。

① テスト分析表

テストの間違えを3種類の間違えに分析し、そしてその分析を基に

① 勉強への姿勢

② やり方や学習時間はどうか

③ 次に気をつける点 を明確にします。

② 日々日報（栄光への軌跡）

日々の日報では毎回の学習が、正しい勉強だったか振り返ります。

① 学習計画・結果

② うまくできた点・出来なかった点

③ 次に気をつける点

④ 次回までの課題

⑤ 正しい勉強するための心がけ（ルーティーン）を確認します。

③ テスト目標シートと計画表

テスト2週間前になるとテスト目標シートとテスト計画表を作成します。

① 目標点数と順位

② 前回の成功の分析・失敗の分析

③ 今回の問題点と対応策

を記入します。

内容がいかどうかよりも大切なことは、成績を上げるために自分は何をすればいいのかを常に意識させることです。

でもこの項目って大人になっても必要なスキルだと思いませんか？
当たり前前の事を当たり前前にやるのが大切です。

コラム…日報っていつ書くの？

日報には「今日うまくできたことを書こう」という項目があります。生徒によつては書く事が無い為悩んでいる生徒がいます。

悩む理由は“授業が終わった後考えるから”です。

言い換えればなにも考えないで授業に臨んでいるからです。

日報は事前に書くことを予想すべきです。

事前に予想しておけば自分への意識付けにもなるし、それがうまくできれば自分を変える事出来るのです。

書くべきことは前の日報を見ればいくらでも出てきます。

普段から意識する事が大切です。

第6部…統一性が大切

講師によって指導方法が違くと、生徒は混乱します。

だからA C Tでは統一性が大切だと考えているので他塾と違う指導をしています。

①講師は塾長一人です。

②動画とテキストは全て塾長が作っています。

動画を使っている所はあるかもしれませんが、業者が作った物を使っているはずです。だから必ず指導に統一性がなくなります。

オリジナルでテキストと動画を作成している個別指導塾はA C Tだけでしょう。

だから中学1年生から3年生まで同じ考え方で指導できるので、成績を上げることが出来るのです。

第7部…定員45名の理由

A C Tの授業雰囲気はどのような？と聞かれれば生徒によっては「厳しい」と答えるかもしれません。

授業中は非常に静かです。携帯をいじっていたり、友達と隠れて話してれば退塾です。

正しい解き方をしていなければやり直しさせます。時にはきつく注意します。だから私の事をとても怖い人と思っている生徒がいるかもしれません。

ヤーキードットソンの法則をご存知でしょうか？

動機づけには、罰やストレスなどの不快なものが一定量あったほうが、効率が上昇するという法則です。

今まで答えを覚える事が勉強だと思っっている生徒にとって、考えるという作業はとても苦痛でいい加減になりがちです。しかしいい加減のまま直そうとしなければ成績は上がりません。

だから始めは「塾長に怒られるのが嫌だから実施する」でもいいと思っっています。成績が上がって来たら自然に考える習慣が出来てくるはずです。

反面、私はくだらないことを子供に話しかけて勉強を中断させます。時にはその周辺に笑いが起きる事もあります。

時には脱線して人生について真剣に話しかける事もあります。友達と話したら退塾なのに、なぜくだらない事を話しかけるといとうと

信頼関係を築きたいからです。

色々な話をしているとその生徒の考えている事が分かるし、逆に私の事も理解してもらえるからです。

誰かに何かをしてもらいたい時「その人のいう事をやってみよう」と相手が必要なければ実施してくれません。

信頼関係、まずはそれが全ての前提だからです。

お陰様で、私のいう事を全面的に信用し、実施する生徒も多く保護者の方からも「塾長からもっと色々話してください」と言われるようになりました。

私は生徒全員をきちんと見て指導をしたいのです。

ACTは、全中学生で45名しかとらないのは、生徒たちと信頼関係を築くためにそれ以上は増やすことが出来ない人数なのです。

第4章 学習塾の選び方

第1部 入塾する目的を明確にすること

あなたが学習塾に入る前に第一にやらなければいけないことそれは、**学習塾に入る目的を明確にすること**です。

目的とは**成績を上げる**など漠然的な事ではなく**学習方法を指導してもらう、順位で10番上げる**など**具体的目的**です。

A C Tでも稀に「指導方法はそちらに任せるから、成績だけ上げてくれればいい」と言われる保護者の方がいますが、それは**絶対してはいけないこと**です。

大事なお子様を預けるのです、あなたがしつかりしなくてはいけません。

塾に求めることをきちんと明確にしましょう。

ではあなたのお子様の成績を上げる為に必要なことを明確にしてみましょう。
方法は「**なぜを3回繰り返す**」ことです。

例をあげてやってみましょう。

1 回目 あなたのお子様は、何故成績が上がらないのですか。

答え 授業では理解しているのに、何故かテストでは解けない。

2 回目 何故解けないのですか。

答え 見たことがある問題なんですけど、解き方を思い出せない。

3 回目 何故解き方を思い出せないのですか。

答え 1 回しか解いたことがない。

この生徒だったら、問題を解く回数（反復）が足りないことが原因かもしれませんので、集団授業的な塾よりも演習中心の塾に通ったほうがよいでしょう。

この様に、真の原因を追究すると心に余裕が出ています。

この例のように演習が足りないのであれば、どれだけ問題を解いたかを管理することにより成績が上がるかどうか想定できるからです。2回反復して駄目ならば、3回・4回と増やしていく、この様に客観的判断が出来るので冷静に次の方策が考えられます。原因がわからないままテストの成績に右往左往される事は精神的に非常に疲れることですよね。

どこでも塾さえ通っていれば成績が上がるというわけではありません。

「みんな塾に行くから行く」など、他人任せにしないで、まずは塾に通わなければいけない理由を探してみましよう。

第2部 評判を信じない

塾選びをする段階で

「あの塾とてもわかりやすくいいよ」という評判と

「あの塾全然成績が上がらないよ」という評判があるとしたらあなたはどちらに電話しますか。

実はこの評判は同じ塾の評判で、同じ塾でも学校（地域）、学年によって評判がまったく正反対ということが実際によくあります。

人によって評判が変わるのは単に成績が上がればよい塾だし、上がらなければ良くない塾で**少数意見が多数意見**となって**流れている**場合があるのです。

また生徒にとって宿題を忘れても怒らない塾が良い塾で、居残りさせられるのが良くない塾など、個人の感情から発せられる情報が多いのかもしれないかもしれません。

これは言い換えれば目的を明確にしていけないからこそ、おきる問題かもしれません。

あなたは

退塾者がたくさん出る塾 と 退塾者が出ない塾

人数が少ない塾

と 人数が多い塾

どちらが良い塾と考え

ますか。

さあどちらを選びましたか

退塾者が出ない塾と人数が多い塾が多いのかもしれませんが、

答えは、**どちらが良い塾かわからない**です。

退塾者が多い塾でも教室を続けられるということ、入塾者も多いと考えられるので、もしかして成績は上がるが厳しい指導で生徒がついていけなくて退塾していくのかもしれない。

人数が少ないのは、塾長が面倒を見られる人数だけ入塾させている、こだわりがある塾かもしれません。

逆に退塾者が出ない塾は、居心地の良い塾（楽しい塾）で成績が上がらないかもしれないし、人数が多いということは一人一人をしっかりと見ることが出来ない塾かも知れません。

先ほどの厳しい塾というのは、実は私の知り合いの塾のことですが、それでも常時入塾待ちの状態だそうです。

人によって良い塾の判断が変わります。このように、評判と内容は違うことが多いので評判に左右されることなく、**自分の足で情報を収集する事**をお勧めします。

第3部 面談を希望して話を聞きましょう

次にやるべきことは、塾の代表者が何を考えて塾を経営しているかじっくりと話を聞きましょう。

「そんなこと面倒くさいしチラシやパンフレットで大体のことは分かる」

といわれるかも知れませんが **学習塾は目に見える製品を売っているわけではないので、車のようにパンフレットで全てが分かるものではないのです。**

チラシやパンフレットは良いことしか書いていません、正しい情報は自分の足で稼ぐそれが鉄則です。

「こんなはずじゃなかった」と思わないためにも面談をお勧めします。

さて面談の日取りを設定しましたが何を質問すべきなのか、予行練習として少し考えて見ましょう。

- ・ 定期テスト前の補習はどうなるんですか。
 - ・ 休んだ場合の振り替えは出来るのですか。
 - ・ 授業料はいつ払うのですか。
 - ・ わからない問題は質問していいのでしょうか。
 - ・ うちの子はおとなしいので、質問が出来ないのですが。
 - ・ 宿題は毎回出されるのですか。
- と言ったところでしょうか。

しかしこの質問をしても塾のことが何もわからないでしょう。

大切な事は**成績を上げるためにどういう指導方針を持っているか**です。
質問する上で一つ良いことを教えましょう。

塾長が話した事を**5W1H**を使用して深く掘り下げることです。

(5 W 1 Hとは、いつ、どこで、誰が、何を、なぜ、どのように、の事です)
例をあげて説明します。

質問 授業の進め方はどうするのですか。

塾長 個別カリキュラムを組んでいます。

質問 いつ誰が作成するのですか。

塾長 講師が作成します。

質問 講師とは誰ですか。

塾長 アルバイト講師です。

質問 アルバイト講師でカリキュラムが組めるのですか。

塾長 研修を受けています。

質問 どれくらいの期間、どのような研修を受けるのですか。

実際記入したカリキュラムを見せてください。

研修内容を教えてください 等

質問例 2

質問 教材は何を使っているのですか。

塾長 オリジナルテキストを使用しています。

質問 それで何故成績が上がるのですか。

このように、相手の話している内容を深掘りしていきます。

ちよつとしつこいですかね、

だけどこれ位しつこくしないと本当のことは出てきません。

意外とパンフレットには魅力的な事を書いていても実際はたいしたことがないことが多いので、ここまでやられると相手はしどろもどろになってしまいます。

ここで返答に詰まるようだったら確固とした考え方を持っていないということなのでその塾はやめたほうが良いでしょう。

気をつけてほしいのは、こちらが質問する理由はあくまでも**この塾が、なぜ成績を上げることが出来るのかを納得する為**ですので、けして揚げ足を取る事ではありません。

また、質問する事自体は躊躇しないほうが良いです。お金をかけ大切なお子様を預けるのですから、「この人になら預けてもいい」と感じるくらいの所に預けたいですよね。

「私がこの質問を受けたらどうする」って私だったら嬉しくて余分な話までしてしまうかもしれません。

第4部 小さな塾にも問合せする

インターネットやチラシを見ると、有名な塾の広告がたくさん並んでいます。あなたが資料を請求する場合は、小さな学習塾にも必ず問合せをして下さい。

わたしたちは普通大きな会社の商品は優れていると考えています。確かに電化製品などは大きな一流メーカーの方が優れているのかもしれませんが、手でとってわかる製品に関しては大きな会社のほうが安心です。

しかし学習塾はモノを売るのではなく、**真心で生徒に勉強を教える場所**です。

どんなに大きな学習塾でも、生徒に接するのは現場にいる先生です。生徒によつては塾の大きさよりも、親身になって教えてくれる先生のほうが価値を感じる方はいらっしゃるのではないのでしょうか。

あなたならどちらに価値を感じますか。

最終章 あとがき

私は西暦2004年に脱サラをして一人で学習塾をはじめました。

塾に通ったこともない私がなぜ学習塾をはじめたかというところ、世の中には後悔している大人がたくさんいる」事がわかったからです。

「もつと勉強しておけばよかった」何人からこの言葉を聞いたことか。

実は小中学校時代の私の成績は良くありませんでした、いや悪かったといったほうが良いかもしれません。

小学校時代の通知表は、「良く出来ました」が3〜4個しかなく、中学2年の頃には300人中230番位の成績であり、中学3年生の10月には250点

くらいしか取れなかったのですが、こんな私でも成績を伸ばすことが出来て、高校入試前には450点程度まで上げることが出来ました。

何をしたかというと、**勉強をした**これ以外ありません。

この出来事で、私は人生が変わったと思っています。その証拠にたくさんの保護者に支持を頂いて学習塾を経営出来ているし、今こうして皆さんに私の思いを伝えることが出来るようになっていくからです。中学校時代の私は「俺は何で生きているんだろう」という疑問だらけの人生でしたから。

「学校の成績だけで人生は決まらない」とよく言われることであり、実際そうかも知れませんが、少なくとも私は「勉強したことによって人生が変わった」と本気で思っています。

そもそも勉強って何で必要なんでしょうか。

もちろん専門分野を勉強して仕事に活かすことも有るでしょうが、私も含めて実社会で学生時代の勉強が直接役に立った人は少ないと思います。

では勉強って何故するのでしょうか、

私は「**困難に対して立ち向かう気持ちを持つ事**」が理由の一つだと思っています。

勉強が趣味と言う子供はいないだろうし、逆に勉強はやりたくないものの代名詞です。

やりたくない勉強を根気強くやり抜き、そして目標としている高校へ合格出来た時に子供たちは大きく成長することができるのです。

今の子供たちは成績の良い生徒と悪い生徒の学力の二極化が進んでいます。

これは私たち大人がいけないのかもしれませんが。

今の時代、便利になり子供たちは何不自由なく生活しています。

反面与えられすぎているため自分では行動を起すことが苦手で、困難があると直ぐにあきらめてしまう子供が多くなってきたように感じます。

あきらめると言うよりも、頑張りたいんだけど「どうしていいのかわからない」と言ったほうが正しいのかもしれませんが。考えて自分で行動することが非常に苦手なのです。

勉強を見ている、よく考えてと言うと30分もただ問題を眺めているだけの生徒、わからない問題の答えを写してくるだけで「何故こうなるの」と聞くと「答えに書いていたから」と話す生徒、結局子供たちは勉強の仕方を知らないのです。

勉強は自分で考えなければ覚えられません。

私たち大人のやるべき事は、子供達に答えを教えることではなく、勉強のやり方を教えて、自ら勉強を進めていくための力をつけてあげることなのです。

成績（順位）は相対評価なので誰かが上がれば誰かが下がるため、学習塾に入った生徒全員の成績が上がるわけではないのですが、

きちんとした選択をしたらこれほど力になる助っ人はいません。

その結果、一人でも多くの子供たちが、大人になった時「子供の頃、勉強してよかった」と思っていただければそれほど嬉しいことはありません。

この冊子が最良の塾選択のお手伝いができれば幸いです。

最後まで読んでいただきありがとうございます。

学習塾ACT 代表 斎藤賢

塾長プロフィール

「A C T式学習法」で、塾生の4分の1を高崎高校、高崎女子高、上位進学校（高崎北校以上）に52.1%合格者を輩出（2012年～2016年実績）する塾長。

中学時代独学で偏差値42から68まであげた経験を子供たちに伝えたく一般企業に勤務後、学習塾A C Tを立ち上げる。

自身、塾が未経験な事を生かし、常識にとられない教室づくりを行った結果、成績アップが続出。

きめ細かい指導をするために塾定員を45名。学習日報やテスト分析、間違えた問題を重視する学習で子供たちの「本当の実力」を引き出す。2年前から導入している成績保証制度では適用人数0人を継続している。

使命は自分で道を切り開く人間を育てる事。